

МОНГОЛ УЛСЫН ИХ СУРГУУЛЬ
ШИНЖЛЭХ УХААНЫ СУРГУУЛЬ
“МОНГОЛ СУДЛАЛ”
Эрдэм шинжилгээний сэтгүүл

Боть XLIX (622)

DOI: 10.22353/ms20254906

契丹小字墓誌銘釈文における若干の誤読訂正と脱漏字の補入¹

チャンサー²

要 旨：“本稿は、契丹小字墓誌銘において一般的に見られる“月令（**𐰺𐰆𐰏𐰤**）令々 銘（誌）曰”という句を切り口とし、各種墓誌銘における“月令（**𐰺𐰆𐰏𐰤**）令々 銘（誌）曰”直前の誌文末尾部分の表現形式および用語の特徴を整理・比較した上で、校勘学的手法を用いて、『契丹小字再研究』に収録された釈文および近年新たに公開された四篇の墓誌銘電子釈文における誤入力・誤記の訂正を行い、併せて一部の脱落文字について補記を試みたものである。電子釈文の整理と校正は、契丹文献の正確な釈読とテキスト整備を進める上で、重要な学術的意義を有する。”

キーワード：契丹小字 墓誌銘 釈文 訂正 補入

契丹小字墓誌銘の釈文作成においては、さまざまな客観的要因および若干の主観的判断により、字形の類似による誤写や、摩滅した文字の判読不能といった問題が常に伴う。

本稿では、契丹小字墓誌銘に見られる“月令（**𐰺𐰆𐰏𐰤**）令々317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）曰”に先立つ志文末尾の文言を比較対象とし、そこに反復的に現れる表現形式および用語選択に着目することで、『契丹小字再研究』^[4]および近年新たに発表された墓誌銘資料^{[1]・[7]・[3]}に収録された釈文中のいくつかの誤記について、訂正および欠字の補記を試みたものである。

一、誤読訂正

契丹小字の釈文における誤記は、客観的な要因によって生じる不可避の現象であり、主に字形の混同と誤った字切りの二点に集約される。これらの誤記の一部は、文法的・構文的な観点から訂正が可能であるが、多くの語義不明な語句については、対勘法を用いて資料間で相互に比較しながら訂正を行うほかない。

¹ 本稿は、国家社会科学基金一般プロジェクト「辽朝皇族契丹小字文献解读与民族文化遗产研究（遼朝皇族契丹小字文献の解読と民族文化継承に関する研究）」（20BYY189）の段階的成果である。

² チャンサー（モンゴル語：ᠴᠠᠩᠰᠠᠷᠤ Б.Чансаа、中国語：钦飒QinSa）、男、内モンゴル大学モンゴル学学院の博士課程在籍（2024年度）。

本稿では、そうした誤記のうち、おおよそ7か所の訂正を試みたが、語義の解明には至っていない。

1. 万方止方 止凡公 y-al-ǵa-al RECORD-g-er

各墓誌銘における“月令（**五九**当）令々 317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）曰”直前の句を観察すると、12篇においてその直前の二文字が“**万**方**五**方**五九**※ y-al-ǵa-al RECORD-g-er”であることが確認できる。以下のように：

- 10『于』：……洸化升火洸令金丙𠄎方止方止凡六。止凡当令勾：[4.] 1081
14『弘』：……为出戊方全癸𠄎方止方止凡六。止凡当令勾： [4.] 1149
16『南』：……为出丙癸癸𠄎方止方止凡六。止凡当令勾： [4.] 1185
17『奴』：……为出戊方全癸𠄎方止方止凡六。又用令勾： [4.] 1203
19『永』：……火和九弱𠄎方止方止凡六。止凡当月半令勾： [4.] 1236
25『清』：……为出丙癸𠄎方止方止凡六公本相居为火。止凡当令勾： [4.] 1330
26『韓』：……失口癸及𠄎方止方止凡六。止凡当令勾： [4.] 1348
27『抄』：……目令庚中癸丙亦当癸及关公本相居为火𠄎方止方止凡六。止凡当□□：[4.] 1361
28『姑』：……为出戊方全癸𠄎方止方止凡六。止凡与令勾： [4.] 1377
32『顯』：……为出口癸及𠄎方止方止凡六。月半令勾： [4.] 1445
34『詳』：……为中口癸穴火𠄎方止方止凡六。止凡与令勾： [4.] 1489

37『玦』：……目令吏中必万公存相臣为火万方立方立九奈。立九当令句：[4.] 1560

上述の本文について説明を加えるべきは、『弘』における“**𠀤九𠂔** ġa-g-er” “**𠀤九与** ġa-g-en” の“**𠀤** ġa”と、『詳』に見られる“**𠀤九𠂔** RECORD-g-oiz”の“**𠂔 oiz**”に限られる。

『弘』においては、他の墓誌銘で“**𠄎**RECORD”と記されている字が“**𠄎**ga”として書かれており、これら二字は異体字または互換字である可能性が考えられる。しかし、本例は当該墓誌銘にのみ見られる孤立例であるため、誤刻の可能性も否定できない。

『詳』に関しては、全文の書風によるものであり、“𠄎 er”が“𠄎 oi₂”として書かれているのはこの墓誌の字体の特徴である。類例は多数存在するため、本稿では詳細な説明を省略する。『詳』と同様の特徴を持つ墓誌として『海』があり、『海』では一律に“𠄎 er”が“𠄎(𠄎) oi (oi₂)”として書かれている³。以上の二点を除けば、冒頭で指摘した現象は明瞭に観察される。

³ 劉鳳翥は論文^[2.]において、『詳』における“※ er”が“※ oi”と書かれている事例を反証の根拠として挙げている。これに対し、呉英喆は檢討論文^[6.]で劉の見解に反論し、『海』にも同様の現象が見られることを指摘した。現象の理由を正確に説明することはできないものの、この事例を反証の証拠とすることは明らかに妥当でないと述べている。

46『姆』：……为出丙𠂔^𠂔𠂔方为𠂔𠂔丙^𠂔公布和屋为火。𠂔九当令句：[3.] 25

さらに、『智』『蒲』においても類似した形式の文が見られ、以下に示す：

18『智』：……友忝中丰来火火爻**𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎**。𠄎𠄎当今句：[4.] 1220
36『蒲』：……为出 爻𠄎𠄎𠄎**𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎**。𠄎𠄎当月今句：[4.] 1529

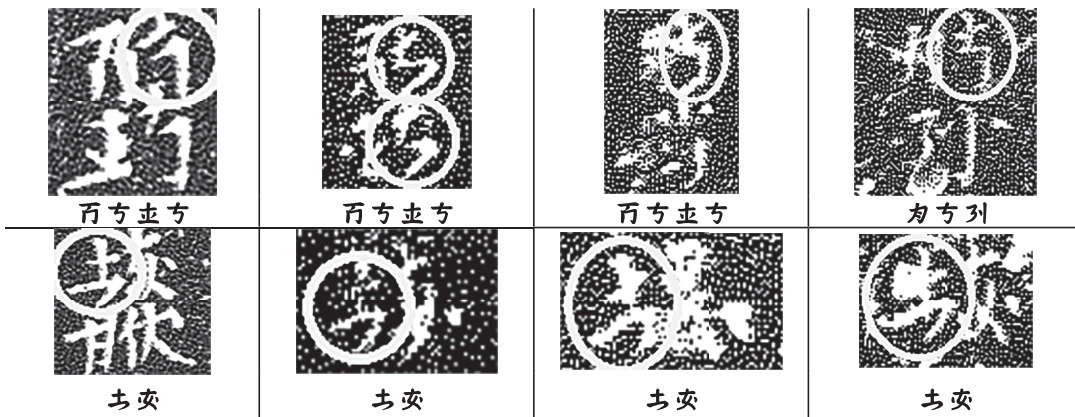
現存資料によれば、語根歹 *y-eu-* の後には基本的に 歹 *ji*、欠 *qó*、化 *ud* などの *u* 音始まりの原字のみが接続されており、これは契丹小字における『暈接法』⁴として学界でこれまで観察されてきた現象と符合する。前述の */a/* 系原字を接続することはこの観察に合致しない。録文全体を概観する

75

と、**𠂔𠂔𠂔** **y-eu-ġa-al** の例は前述のものを除き、『仁』24—9、『敵』2—23の2例のみであり、さらに **𠂔𠂔𠂔𠂔** **y-eu-ġa-al-ci** (『詳』42—2) が1例ある。

『蒲』の **𠂔𠂔𠂔** **y-au-ġa-al** も自身のものだけの一例である。対照的に、**𠂔𠂔** **y-al-** は後に/a/系原字を接続し、畳接法に合致する上、その派生語も40例以上確認されている。以上の点から、これらの例はすべて **𠂔** **al** が **𠂔** **eu** や **𠂔** **au** に誤記されたものと推断される。

混同の原因については、『蒲』における **𠂔** **al** が **𠂔** **au** に誤記されたのは、『蒲』の拓本が極めて不鮮明であることに起因すると考えられる。一方、『智』における **𠂔** が **𠂔** に誤記されたのは、石刻上の両字の字形が類似しているためである。以下の表に示すように、不鮮明な拓本では、**𠂔** と **𠂔** の識別点が字の下方左側の突出の有無に過ぎず、これが二字の混同を招いている。しかし、この点は電子フォント上ではほとんど識別できない。



2. 𠂔出 𠂔𠂔𠂔 **a-án sh-al-s-er**

「一1.」で言及された“**𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔 y-al-ġa-al RECORD-g-er**”の直前の二字について、五篇の墓誌銘では“**𠂔出 𠂔𠂔𠂔 a-án sh-al-s-er**”と記されている。以下の通り：

14『弘』：…… **𠂔出 𠂔𠂔𠂔** **𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔**。𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔： [4.] 1149

17『奴』：…… **𠂔出 𠂔𠂔𠂔** **𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔**。𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔： [4.] 1203

21『迪』：…… **𠂔出 𠂔𠂔𠂔** **𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔**。𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔： [4.] 1264

40『貼』：…… **𠂔出 𠂔𠂔𠂔** **𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔**。𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔： [7.] 20

44『天』：…… **𠂔出 𠂔𠂔𠂔** **𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔**。… (二十三字) … 𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔： [1.] 30

迪』および『貼』においては、“**𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔 y-al-ġa-al RECORD-g-er**”という句ではないものの、これは両碑の撰者が固定された表現を機械的

に用いるのではなく、別の語を選択したにすぎないと考えられる。形式に着目すれば、これら五つの文はいずれも同一の構造を持つといえる。

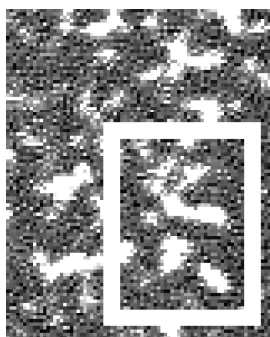
また、『姑』および『蒲』においても、これに類似した形式の句が見られ、以下に示す：

28『姑』：……为出又方全冬 万方並方並凡冬。並凡与 令句： [4.] 1377

36『蒲』：……为出又与全冬 万并並方[並凡冬]。並凡当月令句： [4.] 1529

上記の5例および現存資料の状況に基づけば、接尾辞 全冬s-as は本例のみに見られる一方、全冬s-er は約100例近く確認されている。また、“又与全冬 sh-eu-s-er” は唯一の例であり、“又方全冬 sh-al-s-er” は7例が見られる。これらの事実に照らし合わせると、『姑』における“为出又方全冬 a-án sh-al-s-as” および『蒲』における“为出又与全冬 a-án sh-eu-s-er” は、いずれも“又与全冬 sh-al-s-er” の誤記であると判断できる。

与al が 与eu に誤記された原因については前述の通りである。ここでの 冬er が 冬as に誤記された理由は、冬er 上部にある二点の間が摩耗しており、拓本上ではそれが連結しているように見えるためである。以下の二図にその例を示す：



6-1



6-2

3. 冬 口冬冬 ui te-er-u

“月令（並凡与）令句 317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）曰” に先立つ句については、“为出又方全冬 万方並方並凡冬 a-án sh-al-s-er y-al-ğa-al RECORD-g-er” という構文を除けば、他に3例、“冬 口冬冬 又化冬平（万方並方）並凡冬 ui te-er-u sh-ud-u-ul (y-al-ğa-al) y-al-ğa-al” という構文が観察される。以下に示す：

11『海』：……冬 口冬冬 又化冬平並凡冬。月令令句： [4.] 1097

26『韓』：……冬 口冬冬 万方並方並凡冬。並凡与令句： [4.] 1348

39『查』：……冬 口冬冬 又化 凡平並凡□。月令令句： [4.] 1588

また、『故』においても、同様の形式を有する句が見られ、以下に示す：

当該文字の拓本（図6-3）を見ると、一見して図6-4に示される“~~飛~~tum”に類似しているように見えるが、右上の白い縁は実際には字の一部ではなく、摩耗によるものである。この文字の正しい構造は、図6-5に示す通りと考えられる。



17『奴』：……九安今止北 又刃友 尺力本 仅 …… [4.] 1203
『天』にも、これに類似した形式の文が見られ、以下に示す：

44『天』：……九安今止北 又刃友 尺力本 又雨 止凡当 岡中升 弱相 辰 仅 ……[1.]30

『天』のこの句は、形式上『弘』『胡』とほぼ一致しており、また“又刃友 m-ir-jī”の直前の二字に関しては『奴』と完全に一致している。『奴』とこれら三例との形式に若干の差異がある理由についてはここでは論じないが、この四例に加え、『于』第24行にも“又刃友 尺力本 m-ir-jī dau-a-ar”が見られることから、“又刃友 尺力本 m-ir-jī dau-a-ar”は固定的な語句の組み合わせであると考えられる。

以上を総合すれば、『天』に記されている“尺力本 da₃-ğa-ar”は“尺力本 dau-ğa-ar”誤記であると推定される。実際、当該文字の拓本を見ると、それが“尺力本 dau-ğa-ar”であることは明らかであり、図6-6に示すとおりである。



6-6

5. 令平尺安 邪平止本 t-ul-û-úr jau-ul-ğa-ar

9篇の墓誌銘における“月令（止凡当）令句 317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）”に先立つ文中には、“令平尺安（令平尺安、令平尺安）邪平止本 t-ul-û-úr (t-ul-u-úr, d-ul-u-úr) jau-ul-ğa-ar”という語句が観察される。以下に示す通りである：

06『令』：……	令平尺安 邪平止本	邪 方 又 ……	[4.] 943
21『迪』：……	令平尺安 邪平止本	邪 方 又 ……	[4.] 1264
25『清』：……	令平尺安 邪平止本	止 方 又 ……	[4.] 1330
27『抄』：……	令平尺安 邪平止本	邪 方 又 ……	[4.] 1361
10『于』：……	令平尺安 邪平止本	止 □ 关 ……	[4.] 1081
33『敵』：……	令平尺安 邪平止本	邪 方 关 ……	[4.] 1463

- 46『姆』：…… 令平仄安 羽平並本 沙 巫 方 关 …… [3.] 24
 28『姑』：…… 公 平 及 安 羽 平 为 本 沙 为 本 …… [4.] 1377
 37『玦』：…… 令平及安 羽平並本 □□ □□ …… [4.] 1560

上記の語句中に見られる“令t-公d”“仄û-及u”“羽es-沙ul₂”の三箇所の差異はいずれも同音字または交替可能な字と考えられるため、同一の語句と見なすことができる。

『弘』においても、これに類似する部分が見られ、以下に示す：

- 14『弘』：…… 令口穴安 羽平並本 羽 方 又 …… [4.] 1149

この語群の後半三字は『令』『迪』『清』『抄』に見られるものと完全に一致していることから、“令口穴安 t-te-nai-úr”は“令平仄安 t-ul-û-úr”の誤記であると推定される。しかしながら、『弘』の拓本を見ると、“令平仄安 t-ul-û-úr”の“平ul”には縦画がなく、見た目には確かに“口te”に似ている（図6-7 参照）。



6-7

とはいえ、その直下にある“羽平並本 jau-ul-ğa-ar”における“平ul”と比較すれば、両者の違いは縦画の有無にすぎないことが明瞭である（図6-8 参照）。



6-8

また、同篇中に現れる他の“平ul”もすべて同様の字形を示しており、以下の2図がこれを示す：



6-9



6-10

残念ながら、同篇中には“ロte”の用例が存在しない、その書風は不明であるため直接比較はできない。しかし、以上の証拠を総合的に考慮すれば、本例



“ ” は “令平仄夾 t-ul-û-úr” と記録するのが妥当であると判断できる。縦画の欠如についての具体的な原因は不明であるが、筆写者の書き漏れまたは刻工による彫刻の不備である可能性が考えられる⁵。

6. 岡中升弼和 COMPOSE-l-ô-ji-en

前述の通り、“月令（丑九当）令々 317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）曰”に先立つ文中には一般的に導入語“依227”が観察される。この語の直前には、『墓誌（誌銘、墓誌銘）+ 撰-形容動詞接尾辞 + [写? -動詞接尾辞] + 動詞-命令形接尾辞』という構造を持つ文が頻繁に見られる。具体例として三例を挙げる：

21『迪』……丑九当月令岡中丑平夫及弼和午百依 [4.] 1263-1264

……誌銘撰-形容動詞接尾辞写?-動詞接尾辞動詞-命令形接尾辞? 導入語

22『図』……半与岡中丑平夫及弼和仄依 [4.] 1282

……墓誌撰-形容動詞接尾辞写?-動詞接尾辞動詞（語根形命令法）導入語

44『天』……又兩丑九当岡中升弼和仄依 [1.] 30

……墓誌撰-動詞接尾辞動詞（語根形命令法）導入語

⁵ 「避諱によるもの」と解釈することも可能であるように思われるが、以下の二点において疑義が生じる。第一に、原字レベルで見ると、該当文字にのみ筆画の欠落が見られ、他の箇所には同様の欠筆が確認されないことから、当該字が避諱対象であるとは考えにくい。第二に、文字全体としての意義を考慮するならば、ある人物の諱を避けた結果と解されるべきであるが、例えば遼の天祚帝など、避諱すべきとされる人物名において、史料上に該当の発音を持つ名前は確認されていない。したがって、本例においては、「避諱」による省略とみなすよりも、むしろ刻写の脱落や記載漏れの可能性が高いと考えられる。

これらの文における用語の一致性および体系的な構造は非常に興味深い
が、本稿では、出現頻度が最も高く、かつ安定している“𠂔 COMPOSE”語根
を含む“𠂔𠂔𠂔𠂔 COMPOSE-l-ǵa-ai” “𠂔𠂔𠂔𠂔 COMPOSE-l-ó-ji-en”とい
う二字に着目し、『永』において“𠂔𠂔𠂔𠂔 COMPOSE-l-ó-ji-en”と記録
されている文字を訂正する。

『永』には以下の形式で現れている：

19『永』……𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 [4.] 1236

この構造は、『弘』『智』『胡』『天』におけるものとほぼ一致してい
るが、“𠂔𠂔 m-in”（墓）に対応する字が“𠂔𠂔𠂔 n-ar-de”（墓）と異な
り、また“𠂔𠂔𠂔𠂔 COMPOSE-l-ó-ji-en”と“𠂔 227”の間の文字も異なる点
を除けば、四例は以下の通りである：

14『弘』……𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 [4.] 1149
18『智』……𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 [4.] 1219
35『胡』……𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 [4.] 1512
44『天』……𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 [1.] 30

総合的に比較検討すると、形式および具体的に後続する“-𠂔𠂔𠂔𠂔 -l-ó-
ji-en”という接尾辞に照らしても、『永』における“𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔-
en”は“𠂔𠂔𠂔𠂔 COMPOSE-l-ó-ji-en”の誤記である可能性が高い。

誤記の原因としては、拓本上で

① “𠂔 COMPOSE”全体が細く、「𠂔」の鉤が「𠂔」とつながって見え；

② 内部の四つの点が二横に連なっているように見えるため、“𠂔𠂔𠂔𠂔”と誤
認さ



6-11

③ れたためと推測される（図6-11参照）。

加えて、もう一つの訂正として、『迪』における“𐰚227”の直前の“𐰚𐰍 tal-y”は“𐰚𐰍 kor-y”の誤写であると考えられる。

7.𐰚 𐰚𐰍𐰚𐰍 es 210-ud-ó-ui es t-em₂-y

契丹小字における^{①②}_{③④}^{⑤⑥}_⑦のような連続した字形の構成は、書写の特徴により、元来一字である

^{①②}_{③④}^{⑤⑥}_⑦が、誤って^{①②}_{③④} + ^{⑤⑥}_⑦の二字に分けて記録されたり、逆に^{①②}_{③④} + ^{①②}_③の二字が两个字一

字の^{①②}_{③④}^{⑤⑥}_⑦として合成されて記録されることがしばしばある。これが本節で訂正対象とする誤記の

一例である。|

『故』『于』『南』『韓』『抄』『玦』の六篇墓誌銘においては、（銘曰）に先立つ文中に、一定の語句“𐰚 𐰚𐰍𐰚𐰍 es 210-ud-ó-ui es t-em₂-y”が確認できる。具体的には以下の通りである：

09『故』	 𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍	[4.] 1021
10『于』	 𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍	[4.] 1081
16『南』	 𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍	[4.] 1185
26『韓』	 𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍	[4.] 1348
27『抄』	 𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍	[4.] 1361
37『玦』	 𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍	[4.] 1560

これら六例のうち、『故』においては前後が入れ替わっている例や、『韓』においては否定詞が両者を直接否定する例もあるが、これらはいずれも変種の範疇に入り、特殊な事例とはみなされない。本質的には同等の用法と見なされる。一方、『詳』の記録では、この固定語句が“𐰚𐰍𐰚𐰍 𐰚𐰍𐰚𐰍 es 210-ud u-ui es t-em₂-y”と記されており、上記の語句と比較すると、一字であるべき“𐰚𐰍𐰚𐰍 210-ud-u-ui”が誤って二字の“𐰚𐰍 𐰚𐰍 210-ud u-ui”に分割されて記録されていることが明白である。

これは記録者の単なるミスではなく、『詳』の墓誌銘における書風が緩

やかであるため、誤った字割りや誤連結を誘発しやすいことに起因する。同様に、同篇墓誌銘中に見られる“一1.”にいった“**口忒𠂔𠂔 te-oi₂-û-ui**”も、同様の理由で二字の“**口忒𠂔𠂔 te-oi₂ û-ui**”に分割されて記録されている。この訂正後の形式は既に前文にて使用しているため、ここでは触れるにとどめる。参考までに、以下の二図を示す：



口忒𠂔𠂔
6-12



尔化𠂔𠂔
6-13

二、脱漏字の補入

墓誌銘は常に避けられない要因により、字跡の摩耗や欠落などが生じ、判読困難あるいは完全に欠損している場合がある。一部の欠字については、校勘法を用いて補填することが可能である。本稿では、以下の4箇の欠字を概ね補填した。

1. 『查』 “**𠂔 口忒𠂔 𠂔化𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔 ui te-er-u sh-ud-û-ul RECORD-g-er**”

『查』の欠損状況はそれほど深刻ではないものの、一部の摩耗が特定の原因に及んでおり、いくつかの情報が欠落している。例えば、『查』の“**𠂔𠂔𠂔𠂔 317-û t-ig 銘曰**”の前に“**𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 ui te-er-u sh-ud-û-ul RECORD-g-𠂔**”^[4] という文が存在する、拓本上では“**𠂔𠂔𠂔 RECORD-g-𠂔**”の欠損部分が何の原字であったかを判読することはほぼ不可能である。しかし、校勘法を用いることで、この摩耗した部分の原字が何であったかを推定することができる。

契丹小字墓誌銘において“**𠂔𠂔𠂔𠂔 317-û t-ig 銘曰**”に先立つ語句の多くは“**𠂔𠂔𠂔 RECORD-g-er**”であるという事実だけでも、『查』の“**𠂔𠂔𠂔 RECORD-g-𠂔**”は“**𠂔𠂔𠂔 RECORD-g-𠂔**”であったと判断できる。ただし、より説得力のある類例があれば尚良い。

実際、『故』『海』には『查』と同じ位置に完全に一致する文が見られ、また『韓』には『查』と同位置で一字のみ異なる文が存在する。以下に示す：

あると考えるに十分な根拠がある。また、『姑』に記録された“令金中谷𠂔_{t-em₂-l-ge-y}”も“令夷中谷𠂔_{t-50-l-ge₂-y}”とすべきである（図6-14参照）。



目令夷中谷𠂔_{t-50-l-ge₂-y}
6-14

さらに、『永』『蒲』『天』に現れる、同じ語根に異なる接尾辞を持つ“令夷中谷𠂔_{t-50-l-u-ji}”という語も、本件の旁証となるであろう。加えて、『南』に現れる“毛余令夷中谷𠂔_{um-qu t-50-l-ge-y um-qu p-al-i}”という語群も一つの証拠となる。

3. 『于』 令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔 𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ al-i

第一節5.で例示した“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar”に関する例文の中で、『于』の例文“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ 𠂔-i”は、『敵』の例文“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-u-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ al-i”と一致している点に注目できる。このことから、『于』の“𠂔𠂔-i”は“𠂔𠂔 al-i”の誤記ではないかと疑われる。しかし、孤例であるため説得力に欠ける面があり、“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ qa-al-i”や“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 d-ul-u-úr jau-ul-a-ar ul₂ a-ar”といった異なる用語例も存在するため、さらなる証拠が必要である。

現存する全例文の中で、“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar es al-ir₂”の形態が最も多く見られ、かつ『敵』の例文“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-u-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ al-i”と末尾接辞が異なるのみであることが判明している。ここから、“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar es al-”は当時もっとも一般的な語句の組み合わせであったと大胆に推測できる。一方、“𠂔𠂔 al-i”“𠂔𠂔 a-ar”は撰者が主観的に選択した他の語である可能性が高い。したがって、“𠂔- al-”の語根出現頻度および同様に“- 𠂔-i”を後継辞とする例を踏まえ、現段階では『于』の“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ 𠂔-i”を“令平仄夷 𠂔平立𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔 t-ul-û-úr jau-ul-ġa-ar ul₂ al-i”と復元するのが妥当である。

4.『韓』“火九谷 百 k-ud-ge₂-y”、『蒲』“火九谷 百 k-ud-ge₂-y”

前述したように、“月牟（五九当）令勾317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）曰”に先行する文中では、一般に導入語“𠂔 227”が観察される。その後、約9編の墓誌銘では、“𠂔𠂔𠂔𠂔 k-ud-ge₂-y”または“𠂔𠂔𠂔𠂔文- k-ud-ge₂-y 326-”の組み合わせが用いられている。具体例は以下の通りである：

六九六五：

- 25『清』……公布矢盡九当网中並半夫及弱相半为仅𠂔充峇𠂔𠂔利伏……[4.] 1330
- 33『敵』……又兩盡九当网中並半夫及弱相辰仅𠂔充峇𠂔𠂔方支𠂔……[4.] 1462
- 34『詳』……公布相盡九当网关□他□仅𠂔充峇𠂔𠂔公……[4.] 1489

六九六 文一：

- 10『于』……公存矢孟凡只约月兮网中並半六只弱相半为伏_{次充谷百文旁}……[4.] 1080
- 12『广』……公存矢孟凡与网中並半六及弱相半为伏_{次充谷百文旁}……[4.] 1109
- 21『迪』……孟凡与月兮网中並半六及弱相半为伏_{次充谷百文伏}……[4.] 1263-1264
- 28『姑』……又雨孟凡与月兮网中並半六及弱相半为伏_{次充谷百文伏}……[4.] 1377
- 30『梁』……付子全相丕付相网中并弱相半为伏_{次充谷百文伏}……[4.] 1424
- 22『囧』……半与网中並半六及弱相取伏_{次充谷百文爻}……[4.] 1282

さらに、“**久丸本**百文-k-ud-ge₂-y 326-”の組み合わせは他の数編にも現れるが、必ずしも“**久** 227”の直後には位置していない。例としては以下の文が挙げられる。

- 06『令』……□□生今安关^𠂔充峇万文伏^𠂔令平只安邪平並本弱方又……[4.] 943
30『兀』……伏乘坐冬 安关^𠂔充峇万文伏^𠂔和关黍全付又付为关亦当和存火又……[4.] 1404

以上より、導入語“**𐄢 227**”の直後に“**𐄢 𐄢 𐄢 k-ud-ge₂-y**”や“**𐄢 𐄢 𐄢 文-k-ud-ge₂-y326-**”が置かれるのは比較的固定した用法であり、特に“**𐄢 𐄢 𐄢 文-k-ud-ge₂-y326-**”はよく見られる定型表現であると考えられる。『韓』『蒲』にも類似しつつも損耗の激しい文例が存在し、以下に示す：

- 26『韓』……半及与[关]?网中並半夫及弱并為只全登全[关□泰百文伏]……[4.] 1347
- 36『蒲』……又兩並九与网中並半為安公因求仅[九]?[关充□□]斗出矣……[4.] 1529

これらはいずれも導入語“**ㄱ227**”の後に位置している。『韓』の例文は“**ㄱ227****ㄴ227** **-k-ud-ge₂-y** 326-”の形態を保持している。『蒲』の例文は嚴

密には“**𠬞丸𠬞𠬞 文**-k-ud-ge₂-y 326-”の形ではないものの、“**𠬞丸𠬞𠬞 才出支**k-ud-𠬞-𠬞 ia-mud-ji”が『敵』の“**𠬞丸𠬞𠬞 才𠬞支**k-ud-ge₂-y ia-ra-ji”と関連付けられる。よって、『韓』『蒲』の“**𠬞𠬞𠬞𠬞 k-𠬞-ge₂-y**”“**𠬞丸𠬞𠬞 k-ud-𠬞-𠬞**”は、それぞれ“**𠬞丸𠬞𠬞 k-ud-ge₂-y**”“**𠬞丸𠬞𠬞 k-ud-ge₂-y**”と復元すべきである。

5.『于』“伏𠬪生今 𠬪关 ĩ-an-ab-s úr-i”、『兀』“伏𠬪坐冬 ĩ-an-te-
as→伏𠬪生冬 𠬪关 ĩ-an-ab-s úr-i”

“**伏夷生冬 ñ-an-ab-as**”という語は、過去にある学者によって、その下に続く動詞“**不力牛 on-a-ai**（降-形容動詞接尾辞）”との文脈的關係から「涙」と釈され、モンゴル語 *nilbusu /nolmas/~nylims/*（涙）との関連性が指摘されたことがある。本稿ではその語義の正否については論じないが、校勘の観点から、いくつかの墓誌に見られる“**伏夷生冬 ñ-an-ab-as**”の誤記訂正および欠字補足を行うものである。

“月牟（五九当）令勾 317-ú (RECORD-g-én) t-ig 銘（誌）曰”に先行する文中において、“伏𪛗生𪛗 ñ-an-ab-as”は比較的頻出する語であり、次のような例が挙げられる：

- 28『姑』……目令庚申峇丙伏庚申冬不列申为出又壬午峇丙方立方立九八。立九与令句：[4.] 1377
36『蒲』……目令庚申峇丙伏庚申冬方列申为出又壬午峇丙方立方立□庚□□。立九与月令句：[4.] 1529
45『烈』……伏庚申冬不列申目峇又申峇丙……止北北立九八为出丙峇立九与。令句：[3.] 20
26『韓』……小令丙申立申伏庚申冬庚寅业坎□业不弱火……丙方立方立九八。立九与令句：[4.] 1348
31『顯』立方九亦相伏庚申冬庚寅九火火为出立九与网申立申……丙方立方立九八。立九与令句：[4.] 1444

この中で『姑』のみが、/p/音をもつ“𠂔b”を“𠂔ab”の代用としているが、それ以外はすべて一致している。特に注目すべきは、『韓』および『蹶』に見られる“伏𠂔𠂔𠂔𠂔 𠂔𠂔𠂔𠂔 n-an-ab-as úr-i”という構文であり、これは『令』および『兀』の（銘曰）に先立つ句にもほぼ同様の形式で現れている。以下はその例である：

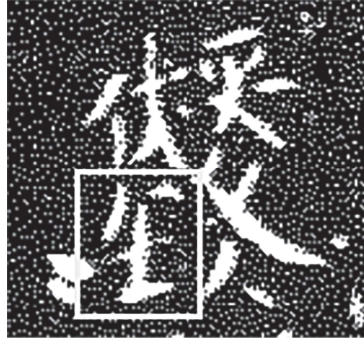
- 06『令』……□□**生全变关**入亢谷百文伏令平尺变邪平並本弱方又……[4.]943
30『兀』……亦当谷关**伏乘坐冬变关**入亢谷百文伏关乘黍全付及付力关亦当杂丹火又……[4.]1404

これら四例を比較した結果、以下のような結論が得られる:

1) 『令』における“□□生今 □-□-ab-s”は、“伏喪生今 n̄-an-ab-as”と復元できる。“今s”と“冬as”は字形こそ異なるものの、いずれも/s/音を含むため、置換可能であると考えられる：

2) 『兀』に見られる“伏𪛗坐冬 ñ-an-te₂-as”は“伏𪛗坐冬 ñ-an-ab-as”と訂正すべきである。

“𐰽te₂”と“𐰽ab”は異体字である可能性も完全には否定できず、実際に拓本上では“𐰽te₂”に似ているようにも見える（図6-15参照）。しかし、異体字としての用例が他に見られず、両者の用法および発音に明確な違いがあることを示す複数の証拠もあるため、本稿では“𐰽te₂”なし、“𐰽ab”とするのがより妥当であると判断した。



6-15

なお、調査の過程で『興』29行に“伏𐰽𐰽冬 ñ-an-zi-as”^{[4.]605}という語が確認された（図6-16参照）。これは写本作成時に“伏𐰽𐰽冬 ñ-an-ab-as”が誤って転写された結果であると考えられる。



6-16

参考文献

1. 吉如何.(2017).新発見契丹小字『耶律天你太師墓誌銘』研究.内蒙古大学.
2. 劉鳳翥.(2011).再論『耶律廉宁墓誌』為贗品.中国社会科学報,5.
3. 彭韃茹罕.(2019).契丹小字『蕭迪烈郎君墓誌』与『耶律阿姆哈娘子墓誌銘』研究.内蒙古大学.
4. 清格爾泰,吳英喆,吉如何.(2017).契丹小字再研究・貳.フフホト:内蒙古大学出版社.
5. 清格爾泰.(2010).契丹小字釋讀問題（修訂本）.清格爾泰.清格爾泰文集.第5卷,契丹文字研究(第371-621頁).赤峰: 内蒙古科学技術出版社.

6. 吳英喆.(2011).契丹小字『蕭敵魯墓誌銘』及『耶律詳穩墓誌』絕非贗品——與劉鳳翥先生商榷.中國社會科學報,5.
7. 趙哈申高娃.(2017).新發現契丹小字『耶律貼不師墓誌銘』研究.內蒙古大學.

付録

表一・契丹小字墓誌全稱略稱對應表

全稱	略稱
01.興宗皇帝哀冊	『興』
02.仁懿皇后哀冊	『仁』
04.道宗皇帝哀冊	『道』
05.宣懿皇后哀冊	『宣』
06.蕭令公墓志	『令』
07.越國王蕭仲恭墓誌銘	『仲』
08.遼國許王墓志	『許』
09.故耶律氏銘石	『故』
10.大遼國尚父于越宋王墓誌銘	『于』
11.海棠山墓志	『海』
12.大契丹國廣陵郡王墓誌銘記	『廣』
13.鎮國上將軍墓誌銘	『鎮』
14.耶律弘用將軍墓誌銘	『弘』
15.涿州刺史墓志	『涿』
16.南贍部洲大遼國故迪烈王墓志文	『南』
17.耶律奴詳穩墓誌銘	『奴』
18.耶律智先太尉墓誌銘	『智』
19.耶律永寧郎君墓誌銘	『永』
20.耶律（韓）高十令公墓志	『高』
21.耶律（韓）迪烈太保墓誌銘	『迪』
22.蕭圖古辭尚書墓誌銘	『圖』
23.故太叔祖哀冊	『太』
24.故宋魏國妃墓誌銘	『宋』
25.蕭太山將軍永清郡主墓誌	『清』
26.韓氏夫人墓誌碑銘	『韓』
27.耶律抄只郎君墓誌銘	『抄』

28.耶律迪里姑太保墓誌銘	『姑』
29.撒懶室魯太師墓誌碑	『撒』
30.耶律兀沒副部署墓誌銘	『兀』
31.梁國王墓誌銘	『梁』
32.顯武將軍拔里公墓誌銘	『顯』
33.蕭敵魯副使墓誌銘	『敵』
34.耶律詳穩墓誌	『詳』
35.蕭胡睹董太師墓誌銘	『胡』
36.耶律蒲速里太傅墓誌碑銘	『蒲』
37.耶律玦敞穩墓誌銘	『玦』
38.蕭回璉郎君墓誌銘	『回』
39.蕭查剌相公墓誌銘	『查』
40.耶律貼不太師墓誌碑	『貼』
44.耶律天你太師墓誌銘	『天』
45.蕭迪烈郎君墓誌銘	『烈』
46.耶律阿姆哈娘子墓誌銘	『姆』

Abstract

This paper takes as its point of departure the commonly observed phrase “月令（五九当）令勾 IT'S INSCRIBED (銘曰 *míng yǒu*)” found in Khitan Small Script epitaphs. It analyzes and compares the structural features and terminology appearing at the end of the inscription texts immediately preceding this phrase. Employing philological and textual criticism methods, the study identifies and corrects erroneous entries and transcription mistakes in the interpretations included in *Further Studies on the Khitan Small Script* as well as in four recently published digital transcriptions of Khitan epitaphs. Additionally, this paper proposes restorations for certain missing characters. The organization and correction of digital transcriptions are of critical scholarly value for the accurate interpretation and systematic compilation of Khitan textual materials.

Key words: Khitan Small Script, Epitaphs, Transcription, Correction, Restoration